

日本の四季 と 人の四季

桜子

一、春が来て 吉野全山

花のさくらが 笑うころ

これまで ずっとと 生きてこられて
良かったと
思える景色に 出会うだろう

二、夏が来て 尾瀬の湿原

水芭蕉

白くて 清らかな天使のように
ささやくよ

「夢の世界だ 別天地！」

「ここで 一ぷく 深呼吸！」

三、秋が来て 太平たいへいの森は
赤や黄色に 染まります
実りの秋だ

静寂な中にも 時折
吹く風が
小鳥のさえずり 運んでくるよ

四、冬が来て 白川郷に
しんしんと 重くて深い雪積つもる夜
家の灯火あかりが
ちらちら ちらり
冷ひえた心を 暖ぬめる

日本はなんて 素晴らしい！
人の四季まで
ステキにするよ！

父と行く自然観察ノート

あの日の私

桜子

父の踏む ペダルは
いつも軽やかで 力強く
田舎の道を すいすい走る

オレンジの風

黄色の風を すり抜けると
やがて

みどりの風

青い風へと 変わって行く
私わたしはいつしか妖精となって
心は遊ぶ

小川に メダカ フナもいて

カエルの声も 長閑のどかに遠くで聴こえてる
つくし れんげ田

白ツメ草

青空 今日も歌ってる

口笛吹いてた父さんと
作るノートは

何十年
経った今でも 色褪あせず
あの日に帰る
魔法のノート
そして心は いつだって
空よりも
高くて宙ひろい
無限大